

第2学年国語科学習指導案

日 時 平成15年11月6日(木)5校時

児 童 2年2組 男19名女17名計36名

指導者 三浦 智子

1 単元名 ようすを考えて読もう 教材名「お手紙」

2 児童と単元について

(1) 児童の実態

児童はこれまで、「ふきのとう」「スイミー」で、場面の様子などを、想像を広げながら読むこと、語や文のまとまりや内容を考えながら声に出して読むことを学習してきた。これらの学習を通して、動作化や劇化を取り入れながら場面の様子を思い描き、自分なりに想像を広げながら読もうとする態度は少しずつ育ってきており、吹き出しや手紙文などに書き表せるようになってきた。また、話の筋の面白さに興味を持つとともに、場面ごとの大まかな内容をとらえられるようになってきている。しかし、言葉や文を手がかりにして、場面の様子などについて想像することや、読み取った内容を自分の言葉で話す力は十分とは言えない。また、読み取った内容を自分の言葉で話す力も十分に育っていない。音読では、大きな声ではっきりと読むことができるようになってきているが、読み取った内容を音読に生かそうとする子は少ない。

(2) 単元について

本単元の主たる指導事項は、「場面の様子などについて、想像を広げながら読むこと」である。

教材文「お手紙」は、がまくんを思うかえるくんのさりげないやさしさと、一通の手紙を通して心が触れ合った二人のほのぼのとした温かい友情が描かれた作品である。

この作品は、①お手紙を待つがまくん、②お手紙を書くかえるくん、③がまくんを励ますかえるくん、④幸せな気持ちでお手紙を待つ二人、⑤お手紙を喜ぶがまくんの五つの場面で構成されている。それぞれの場所、登場人物の行動や心情に変化が見られ、場面の移り変わりがとらえ易くなっている。文章構成は簡潔で分かり易く、かえるくんとがまくんの会話を中心に物語が展開されている。またその会話文の中に気持ちや人柄が表れているのも特徴である。そこで、がまくんとかえるくんの会話や行動を時間的な順序に従って読み進めることによって、場面ごとの人物の様子やその移り変わりをとらえることができる。また、作者自身が描いた挿絵も、二人の動作や表情などを理解する助けとなり、場面の様子などを豊かに想像する手がかりとなる。

国語の学習や日常生活の中で、手紙を出す楽しみや受け取る喜びを経験している子供たちは、本教材の「手紙」に興味・関心をもち、それを通して行われる心の交流について、登場人物に同化したり共感したりし、想像を広げながら読み進めていくことができると思われる。

(3) 指導にあたって

本単元で、「場面の様子などについて想像を広げながら読むこと」の定着を図るため、指導にあたっては、次のように進めたい。

- ・紙人形劇をするというめあてを持って、学習を進める。
- ・それぞれの場面のがまくんとかえるくんの様子を、サイドラインを引いたり、吹き出しに書いたりすることで、叙述と結び付けながら想像していくことができるようにする。
- ・読み取ったことを音読に表現することができるように、それぞれの場面での読み方を考えさせる。
- ・がまくんとかえるくんの人物像や場面の様子が表れるように、工夫して紙人形劇をする。
- ・がまくんとかえるくんの他のお話を読み、物語の世界を広げていく。

3 単元の目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- ・紙人形劇にすることを考えながら、「お手紙」を進んで想像しながら読もうとする。
- ・がまくんとかえるくんのほかのお話にも興味を持ち、楽しんで読んでいる。

(2) 書くこと

- ・もらった人に喜ばれるには、どのような事柄を書けばよいのかを考えて、手紙を書くことができる。(イ)

(3) 読むこと

- ・場面の様子やがまくん、かえるくんの人物像について、想像を広げながら読むことができる。(ウ)

(4) 言語事項

- ・会話文と地の文を区別することができる。(ウ - (イ))

4 単元の評価規準

(1) 国語への関心・意欲・態度

- ・登場人物になりきって、楽しく紙人形劇をしようとしている。
- ・がまくんとかえるくんのほかのお話を楽しんで読んでいる。

(2) 書くこと

- ・どんなことが書いてあったら相手が喜んでくれるかを考えて、手紙を書いている。

(3) 読むこと

- ・挿絵や叙述をもとに、場面の様子やがまくん、かえるくんの行動について、サイドラインを引いたり、吹き出しに書いたりし、想像を広げながら読んでいる。

(4) 言語事項

- ・会話文と地の文を区別して、視写したり音読したりしている。

5 学習指導計画と評価規準

14時間(書く2、読む12)

過程	学習内容	評価規準			
		関心・意欲・態度	書くこと	読むこと	言語事項
見通す	○あらすじをとらえ、学習の見通しをもつ。 1	・意欲的に感想を書こうとしたり、学習の見通しをとらえようとしている。		・おもしろかったところや好きなどころを見つけている。	
	○新出漢字や語句の学習をし、声に出して読む。 1	・漢字・語句の学習や音読に進んで取り組もうとしている。		・新出漢字に気を付けて、はっきり正しく読んでいる。	
	○場面分けをし、学習の計画を立てる。 1	・意欲的に場面を分け、学習課題を考えようとしている。		・登場人物の行動や場面ごとの様子などをもとにして、学習課題を考えている。	
深める	○がまくんとかえるくんが悲しい気分になった理由や二人の様子を読み取る。 1	・二人が悲しんでいる理由や様子を、意欲的に読み取ろうとしている。		・二人が悲しんでいる理由をとらえ、その様子について想像を広げながら読んでいる。	・会話文と地の文に気を付けて読んでいる。
	○がまくんのために手紙を書き、かたつむりくんにかえるくんの様子を意欲的に読み取ろうとしている。 1	・大急ぎで手紙を書き、かたつむりくんにかえるくんの様子を意欲的に読み取ろうとしている。		・かえるくんの行動から、かえるくんのがまくんに対する思いについて想像を広げながら読んでいる。	・会話文と地の文に気を付けて読んでいる。
	○あきらめて投げやりながまくんとなんとか励まそうとするかえるくんの様子を読み取る。 1	・手紙の到着を待ちわびるかえるくと悲観的になっているがまくんの様子を、意欲的に読み取ろうとしている。		・手紙を待つかえるくと、悲観的になっているがまくんを対比的にとらえ、二人の様子について想像を広げながら読んでいる。	・会話文と地の文に気を付けて読んでいる。
	○がまくんとかえるくんが幸せな気持ちになった理由や二人の様子を読み取る。 本時 1	・二人が幸せな気持ちになった理由や様子を意欲的に読み取ろうとしている。		・二人が幸せな気持ちになった理由をとらえ、幸せな気持ちでいる様子を想像を広げながら読んでいる。	・会話文と地の文に気を付けて読んでいる。
	○手紙が届いた時の二人の幸せな様子を読み取る。 1	・手紙が届いた時の二人の幸せな様子を意欲的に読み取ろうとしている。		・四日たって手紙が届いたときの二人の様子について、想像を広げながら読んでいる。	・会話文と地の文に気を付けて読んでいる。
	○まとめの学習をする。 1	・かえるくんに対するがまくんの思いを意欲的に読み取ろうとしている。		・これまでの学習を振り返り、がまくんの様子の変化とかえるくんへの思いを想像を広げながら読んでいる。	・漢字や語句について理解している。
	広げる	○グループごとに、紙人形劇の準備や練習をする。 2	・紙人形劇の準備や練習に進んで取り組もうとしている。		・動きや会話を通して、想像を広げながら読み、紙人形劇を楽しんで練習している。
○紙人形劇の発表会をする。 1		・紙人形劇を楽しみながら、発表しようとしている。		・動きや会話を通して、想像を広げながら紙人形劇の発表をしている。	
○友だちの発表のよかったところを手紙に書き、手紙をもらってうれしかったことを発表し合う。 2		・手紙を書くことに興味をもち、相手が好きそうな内容の手紙を進んで書くこととする。	・どんなことが書いてあったら相手が喜んでくれるかを考えて、手紙を書いている。		

6 本時の指導

(1)ねらい

◎手紙文や会話文から、友だちを思うかえるくと感激するがまくんの気持ちを読み取り、幸せな二人の様子を想像することができる。

(2)展開

過程	学習内容	教師の働きかけ ◆判断基準
つかむ	1 前時の学習を想起する。 (1分)	・前時を振り返りながら、手紙を待つことにあきあきしているがまくんと、何とか励まそうとするかえるくんの様子を想起できるようにする。
	2 本時の学習課題を確認する。 (3分) ふたりもしあわせな気持ちになったのはなぜだろう。	・挿絵や1場面との比較から、がまくんだけではなく、かえるくんもしあわせになったことを確認し、課題を明確にとらえることができるようにする。
読み取る	3 学習範囲を音読する (2分) ○役割読みをするとともに音読を聞く。	・がまくん、かえるくん、地の文の役割読みををすることにより、会話文を意識して読み、聞くことができるようにする。
	4 学習課題を解決する (1)かえるくんがお手紙を出したということを聞いたがまくんの驚きを読み取る。 (4分) (2)お手紙の内容を知って、感激するがまくんの気持ちについて、一人学びをする。 (10分) ○かえるくんが書いた手紙文を音読する。 ○手紙文を視写する。 ○がまくんがうれしくなったと思うところにサイドラインを引く。	・1度もお手紙をもらったことのないがまくんの驚きを、「きみが。」に着目させ音読することで読み取れるようにする。 ・音読し、視写することにより、手紙文の内容に着目できるようにする。 ・手紙文を、正しく視写するよう助言する。 ・「とても、いいお手紙だ。」と思ったのは、どの言葉からか考え、サイドラインを引くことができるようにする。 ・サイドラインを引けない子には、自分がもらったらどの言葉がうれしか想像するように助言する。
	(3)一人学びしたことをもとに学び合う。 (12分) ○サイドラインを引いた言葉をもとに、感激するがまくんの気持ちについて話し合う。	・「親友」「親愛」という言葉の意味をこどもなりにとらえさせ、自分のことを大切に思ってくれる友達がいることをうれしく思うがまくんの気持ちを想像することができるようにする。
	○がまくんの気持ちが表れるように「ああ。」「とても、いいお手紙だ。」を音読する。 (4)かえるくんの幸せな気持ちを読み取る。 (2分) ○がまくんの様子から、かえるくんがどう思ったかを考え、話し合う。	・「ああ。」「とても、いいお手紙だ。」を、がまくんの気持ちになって読んでみることで、がまくんの幸せな気持ちを味わうことができるようにする。 ・手紙を書いたかえるくんの前時までの行動を振り返ることで、がまくんの様子を見たかえるくんの幸せな気持ちを読み取ることができるようにする。

	<p>(5) 幸せな二人の気持ちを想像して吹き出しに書く。(7分)</p>	<p>・板書を振り返り、二人の心が通い合い、幸せな気持ちになっていることを想像して、吹き出しに書くことができるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆二人の幸せな気持ちを想像して、吹き出しに書くことができたか。</p> <p>A.二人の幸せな気持ちを想像し、二人の心の交流をとらえながら、二人が思ったことを吹き出しに書いている。</p> <p>B.二人の幸せな気持ちを想像し、二人が思ったことを吹き出しに書いている。</p> <p>Cへの支援</p> <p>・手紙の視写文をもとに、がまくんが幸せになった理由を確かめるように助言する。</p> <p>・前時までのかえるくんのがまくんに対する思いを想起させる。</p> </div>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">まとめる</p>	<p>5 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 二人の様子を想像しながら、音読をする。 ○それぞれ自分の速さで音読をする。(2分)</p> <p>(2) 自己評価をする。(1分)</p> <p>6 次時の学習について見通しをもつ (1分)</p>	<p>・板書をもとに二人の様子や気持ちを振り返り、自分の読みをもとにして音読することができるようにする。</p> <p>・本時の学習を振り返り、満足感、成就感をもつことができるようにする。(挙手)</p>

お手紙

四

ふたりともしあわせな気持ちになつたのはなぜだろう。

かえるくん
挿絵

「きみが。」

二人の
挿絵

親あいなるがまがえるくん。ぼくは、きみがぼくの親友であることを、うれしく思っています。きみの親友、かえる。

かえるくん

がまくんがよろこんでくれてうれしい。

三人がすわっている
挿絵

Blank lined writing area on the left page of an open notebook, featuring seven vertical lines for text entry.

Blank lined writing area on the right page of an open notebook, featuring seven vertical lines for text entry.

